

2015年度 世界展開力強化事業  
中南米との大学間交流プログラム（短期留学）帰国報告書

国際食料情報学部・国際農業開発学科・2年 佐藤 実紗妃

私がこのプログラムに参加した目的は主に三つあります。第一に有用植物（特にカムカム）に興味があり、実際に現地に行き自分の目で見て学びたかったためです。ペルーには豊富な有用植物が揃っているのにも関わらず、国は豊かではありません。その現状を実際に現地に行き見てみたいと思いました。実際にペルーでお仕事をされているカムカム協会ペルー本部会長の鈴木孝幸さんに農大で講演を行っていただいた際、個人的にお話をすることができました。そこで自分の意志が固まり、カムカム協会へ行ってみよう、一緒に現場で活躍したいと強く思いました。ペルーの多様な気候の中で育つ多種多様な作物についての知識を現地での経験を通して学び、そして貧困問題・環境問題・麻薬対策などの問題を抱えているペルーで何か自分に出来ることを見つけ、将来に活かしたいと考えています。第二にスペイン語を上達させたいため、第三に将来国際熱帯農業センターなどの国際農業関連の企業で活躍したいためです。このような企業で活躍するためには英語以外にも重要視されているスペイン語が必須だと思いました。机上の勉強では限界があるため現地の方とのコミュニケーションを通して体得したかったためです。

目的達成のために現地で行った内容は、まずラ・モリーナ国立農業大学の学生さんとの交流です。学生さんとたくさん交流する時間があり、少しではありますがスペイン語の上達に繋がったと思います。しかし主に英語を使っていたので、自分の努力次第でもう少しスペイン語を上達させることができたのではないかと思います。また学生さんに大学内を案内してもらいました。敷地の広さと設備の充実さに驚きました。農大は三つのキャンパスが遠く離れて分かれているため、学科・学部間での連携は難しいと思いますが、こちらの大学は一つのキャンパスに全学部・学科が含まれているため、お互いに共同研究ができたりなどして、とても良い環境だと思いました。

またアンデス地域のカハマルカに行きました。ここでは農大のOB・OGの方のお宅にホームステイをさせていただきました。標高3955mのところまで行ったため、海岸地域であるリマでは見られないような作物の栽培方法を見ることができました。高いところでは傾斜地で牧草を育てる様子や放牧、貴重な収入資源であるキノコの収穫や乾燥、未だ利用方法や効能が知られていない植物などを見ることができます。3000mほどまで下っていくと、ペルーのこの地帯が原産のMaiz Morado（紫トウモロコシ）の栽培が盛んです。このように標高が変わるにつれて、栽培されている作物も変わってくるのが自分の目で見れて、比較できて面白かったです。国立農業研究所 inia（Instituto Nacional Innovacion）のカハマルカ支部にも行きました。ここで農大のOBの方が働いており、お話を伺わせていただきました。日本の民間企業に勤めており、JICAから委託された事業を行ってい

て、ここでは **Maiz Morado** の栽培を通して技術支援をしているそうです。私が将来やりたい事と似ていて、とても有意義で貴重な時間となりました。カハマルカで一番大きく、唯一機械で搾乳を行っている牧場にも行きました。一頭一頭大切に育てており、餌や搾乳システムなどにおいて様々な工夫がされていて興味深かったです。カハマルカは牛乳やチーズの生産が盛んな地域だそうで、どこに行っても牛や羊がたくさんいました。カハマルカに行けたためペルーの三つに分かれている海岸地帯・アンデス地帯・アマゾン地帯のうち二つを比較することができました。

また今回のプログラムに参加した一番の目的であったカムカム協会では、リマ市内のオフィスと海岸付近の農場に行き、カムカム協会ペルー本部会長の鈴木孝幸さんからカムカム協会を設立するまでの経緯やその後の活動など、波乱万丈な経験談を聴かせていただきました。とても厳しい環境で激しいテロが起こる中や険しいアマゾン川を渡り、命がけでカムカムを広め、貧困問題・社会問題・環境問題の解決に繋げていった鈴木さんは今やペルーの発展に欠かせない存在であると思いました。また、お話を聴いている中で、貧しい人や途上国の支援をする際にその人・その国の宗教や歴史、文化などをしっかりと理解した上で行わないと、様々な問題が発生し支援が進まないどころか悪化させてしまう恐れがあるということを改めて感じました。同じペルー人だとしても海岸地帯・アンデス地帯・アマゾン地帯では育ってきた環境や性格などが異なります。その人たちに対して同じ支援の仕方をして上手くいくはずがありません。その人に合った方法でやっていくためにはまず作物についてよりも歴史や宗教、文化などの勉強が必要だと思いました。

目標達成度の自己評価についてですが、あまり満足していません。短期だったため仕方がなかったかもしれませんが、アマゾン地帯に行き一番見たかったカムカムなどの有用植物が実際に栽培されている様子が見ることができなかつたためです。カムカム協会のことについて日本では知ることができなかつたことはたくさんありましたが、日本でも勉強できるようなことでもあり、たくさんの果樹や穀物などはマーケットで販売されている様子を見ることくらいしかできませんでした。マーケットで現地のそのものの味を知ることができましたが、やはり農家さんが栽培している様子やどのような作付け方法で行っているのかなど学ぶことができなかったのは悔いが残っています。

貧富の差が激しいペルーでの貧困問題についてはリマ市内でも学ぶことができました。リゾート地でもあり観光客が多くいる一見発展しているリマ市内で、多くの子どもが働かせられており、夜遅くに道路で車と車の間で物を売る小さい女の子を見たときには言葉が出ませんでした。道端に座り物乞いをする人や、ぼったくろうとする店やタクシーなど話では聞いたことがあります、実際にその現状は想像以上に悲惨なものでした。今の日本では想像もつかないようなことが日常的に起こっていることに驚きました。

スペイン語については、英語での生活がほとんどであったため、少ししか上達しませんでした。自分の努力不足だったと思います。また事前準備が足らなかつたと思います。スペイン語に関しても事前にもっと勉強していれば上達度も高かつたのではないかと思います。

す。作物についての知識のみならず、宗教、政治、文化などの知識不足を痛感しました。

またラ・モリーナ国立農業大学での講義を受ける時間がもっと欲しかったです。お世話になっていた研究室の学生さんの研究発表と先生からのペルーの農業の概要についての講義を受け、興味深いものでしたが、大学内全体ではどのようなことが研究されているのか、またペルーの農業のもっと深いところまで講義やフィールドワークを通して学びたかったです。今回行ったフィールドワークはお世話になった研究室の学生が研究している唐辛子の除草とブロッコリーの種取りでした。日本での実習などでも何度もやったことがあったため、ペルーでしかできないようなことをやれたらよかったです。

今後の取り組みとしては第一段階としてスペイン語と、ペルーの宗教、政治、歴史、文化についての勉強です。

またカムカム協会に行き鈴木さんからお話を伺ったことにより、より一層カムカムについて研究したいという意思が固まりました。既に研究されている作物の研究を進めていく事は容易にできますが、ほとんど知られていない作物を自ら研究し、それをさらに広め農民支援をしていくという難しいことを成し遂げた鈴木さんは、私にはとても手の届かない存在です。しかし、少しでも何か農民の助けになることがしたいため、まだカムカムにおいて研究されていないことを自分の卒業論文のテーマにしたいと考えました。そのためにはやはり再びペルーに行き現地の方が栽培している様子を見て、現地の方と共に生活し理解することが必要だと思いました。今回のような短期間では見られなかったことがたくさんあるため、第二段階として本プログラムの長期留学に参加したいです。

このプログラムに対する要望ですが、空港とホテル間、ホテルと大学間が遠かったため、その交通費は支給していただきたかったです。農大に今回のプログラムで来ていた交換留学生は農大敷地内の寮に滞在していたため、大学までの交通費はかかっているはずですが、そのため私たちも交換留学生であったため、同じような待遇を受けても良かったのではないかと思います。また大変失礼なことを申し上げますが、今回のプログラム内容では本事業の目的である「中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家の育成」はできないと思います。確かに農学系インターンシップは3日間あり、今後の将来に繋がるものは得ることができましたが、大学内でのフィールドワークの内容の改善とインターンシップの内容をより充実させることが必要であると考えます。また観光をする時間をいただけ、スペインに占領されていた時代のことなど学べたのは嬉しく思いますが、観光の時間が2週間という短期間の中では多すぎたのではないかと思います。インターンシップを行う日があと一日多ければ、有用植物が豊富な農場に行けたと鈴木さんがおっしゃっていました。観光する日を一日減らし、そちらに当てれば自分の目的がまた一つ達成できたはずですが、もったいないとまでは思いませんが、その時間が惜しかったです。長期であれば息抜きになり丁度良いですが、ペルーの農業について学びたかったためにこのプログラムに参加したので、そちらの方をもっと充実させて欲しかったです。また農大に交換留学生が来る時期と私たちが留学している時期とがほとんど被っているため、時期をずら

していただければ留学生との交流の時間が多く取れより良いものになるのではないかと思います。今後のプログラムをより良いものにし、本事業の目的に近付けるためにもこのようなことを改善して欲しいです。



大学内でのフィールドワークの様子



カハマルカの牧場



カムカム協会のオフィスにて



リマのマーケットにて農大 OB お二人と